

**アーツコミッション・ヨコハマ (ACY)**  
**2025年度 (令和7年度)**  
**事業報告書**

**公益財団法人横浜市芸術文化振興財団**

# 目次

1. 組織概要	p.3
2. 令和7年度総括	p.4
3. 事業報告	
(1)相談・コーディネート事業	
相談窓口	p.5
横浜市クリエイターデータベース	p.5
(2)助成事業	
ACYアーティスト・フェローシップ助成	p.6
継続補助事業	p.7
(3)情報発信事業	
ACYHPによる情報発信	p.8
ヨコハマ・アートナビによる情報発信	
(4)プラットフォーム事業	
ACYフォーラム	p.9-10
関内外OPEN!	p.11
ミナトノアート	p.12
令和の横浜使節団	p.13-14

# 1. 組織概要

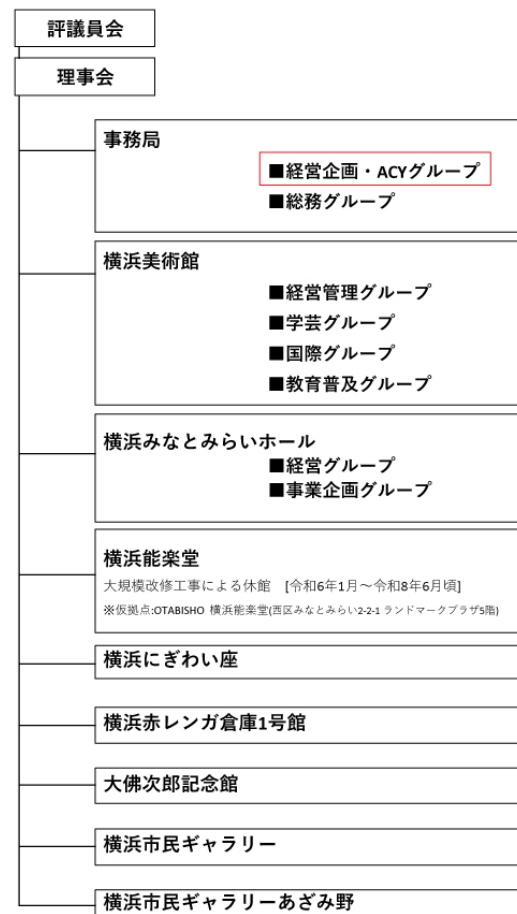
アートミッション・ヨコハマ（ACY）は、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団が運営する「芸術文化と社会を横断的に繋いでいくための中間支援」のプログラムです。

## ACYが目指し取り組むこと

横浜で人々が多様な分野や様々な場所で創造的に働き暮らし活動するために、ACYは文化財団および地域版アーツカウンシルの見地から、まちの醸成に取り組めます。

横浜でアーティスト、クリエイター、大学、NPO等の創造の担い手が多様な領域と協働して横浜の歴史・文化・環境を読み解き新しい価値をつくっていくため、ACYはこれらの創造の担い手の環境を調べ、またこれらの担い手のネットワークを構築し、協働を促します。

## 組織図



## 2. 令和7年度総括

令和7年度のアート Kommission・ヨコハマ（ACY）の活動は、横浜各地で共創・協働を生み出す中間支援活動を展開しました。アーティストのキャリア支援と郊外の地域のコミュニティ拠点との協働を進めるとともに、情報発信に取り組みました。

ACYアーティスト・フェローシップ助成では、アーティストの創作活動を支援し、地域との交流を促進し、横浜における創造人材の育成と地域との接点をつくる循環の仕組みが一層定着しました。

相談窓口では、横浜の創造活動をワンストップ窓口として100件を超える相談に対応しました。ACY公式webサイトの更新によりこれまで支援してきたアーティストの紹介を強化しました。また、クリエイター・データベースやヨコハマ・アートナビの運営、ACYメールニュースの定期的な発信するなど、情報発信を強化しました。

ネットワーク事業において、関内外OPEN!では、新たにクリエイターの活動を郊外に開き、3か年計画で新たな取り組みをスタートさせました。また、ACYフォーラム、ミナトノ・アート、令和の横浜使節団の実施を通じて市内外の創造的なネットワークを広げました。

# 3. 事業報告

## (1) 相談・コーディネート事業

目的：横浜で活動するアーティストやクリエイター、企業や行政等からのご相談に対応する

### 相談窓口

横浜で活動するアーティストやクリエイター、企業や行政等からのご相談に対応しています

相談件数：108件（2025年4月～2026年3月）

・ URL：<https://acy.yafjp.org/consultation/>

<事例案>相談者：神奈川芸術文化財団 社会連携ポータル課  
年間レポートのリニューアルを検討中で内容の刷新から相談ができるデザイナーを探していました。横浜市クリエイターデータベースから何社か特徴をお伝えし、依頼に繋がりました。

相談者属性		相談内容	
アート系	33	専門協議・助言	64
クリエイター系／創造産業系	17	視察／調査／取材	10
一般企業	26	広報支援	11
行政	25	助成	0
市民団体	2	移転	0
大学	1	紹介／マッチング	9
オーナー	2	情報提供	7
マスコミ	0	DB登録希望	7
その他	2	その他	0

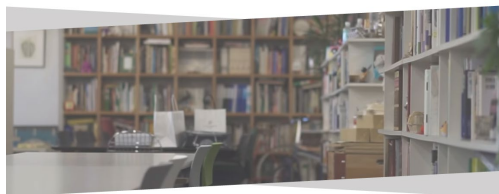
目的：横浜市内のクリエイターを紹介する

### 横浜市クリエイターデータベースによる情報発信



横浜市内のクリエイターを紹介するwebサイト。会社概要や得意分野、制作事例を掲載しています。登録者はデザインや映像・写真、WEB、コンテンツ制作などのクライアントワークを行う事業者で、利用者は企業や行政各部署、NPO法人等を想定しています。

- ・ 閲覧者：約6.8万PV（2025年4月～2026年3月）
- ・ 登録数：83組（2026年3月末）、今年度新規登録4組
- ・ URL：<https://creatorsdatabase.acy.yafjp.org/>



## (2) 助成事業

目的：アーティストのキャリア形成を支援する

### 2025年度 ACYアーティスト・フェローシップ助成



交付金額：100万円/年・人

採択者：Aki Iwaya、城戸保、小林勇輝、安田葉

活動期間：2026年5月～2027年2月

審査員：天野太郎、野上絹代、藤原徹平、帆足亜紀

交付額：100万円（定額）×4名

URL：<https://acy.yafjp.org/grants/2025/128230/>

報告書：<https://acy.yafjp.org//about/report/>

### アウトプット

2025年度は4名のアーティストを採択しました。採択アーティストは横浜市内の民設民営拠点に滞在しながら、リサーチ、ワークショップ、展示などの活動を展開しました。拠点運営者や地域住民との交流を重ね、それぞれの関心やテーマをもとに作品制作や企画を実施しました。ACYでは、助成金の交付に加え、横浜の人や団体の紹介、拠点とのコーディネート、広報協力などを行い、アーティストの活動を多角的にサポートしました。また、横浜美術館で助成報告会を開催し、活動内容を共有しました。さらに活動報告書を制作し、全国の美術館や劇場へ配布するなど、アーティストのキャリア形成につながる機会をつくりました。アーティストへの最終アンケートでは、「中・長期のキャリアや作品のビジョンを確立できた」と全員が回答し、「横浜市内で新しい人や情報と出会う機会」を得られたとする回答も全員に見られました。拠点を介した出会いや交流は、アーティストのリサーチや制作の発展につながり、横浜での活動や人との関係を広げる契機となりました。

### 参加者・関係者の声

- ・ 横浜の人や場所の情報を紹介してもらえたことで活動が広がりました（アーティスト）
- ・ 想定以上にプロジェクトが発展し、新しい出会いや機会が生まれました（アーティスト）
- ・ あらためて地域のことを深く知るきっかけとなりました（拠点）
- ・ 滞在するアーティストと地域の方々が関わる機会が生まれた（拠点）

### 展望

次年度からは助成期間を2年間とし、1年目に横浜に滞在し、2年目に1年目の活動に基づいた作品発表を行います。ACYおよび受入拠点、財団の専門職員が活動を支援することで、リサーチから発表までのプロセスを通じてアーティストのキャリア形成と地域との関係づくりを継続的に育んでいきます。

## 継続補助事業

対象者：5名 加藤立、工藤春香、敷地理、私道かび、山岡瑞子

対象期間：2025年10月～2026年1月

### アウトプット

「ACYアーティスト・フェローシップ助成」に採択されたアーティストが、助成対象期間終了後も横浜で活動を展開できるよう、負担金の拠出をはじめとするサポートを行いました。本事業を通じて5名のアーティストが横浜市内で作品を発表しました。

- ・ 加藤立：展覧会「Ubik」2025/10/10～23 @象の鼻テラス 来場者数：260名  
市民に開かれた空間に、スケルトンの展示室を出現させ、加藤氏がキュレーションした作品群を展示しました。
- ・ 工藤春香：展覧会「工藤春香+カプカプ川和『ここを北極星とする』」2026/1/13～30  
@カプカプ川和、フォルテ横浜川和 無印良品内コミュニティスペース 来場者数：延べ390名  
生活介護事業所・カプカプ川和と協働し、障害支援に関わる支援者の姿や当事者間との関係性を鑑賞者と共有できる場を創出しました。
- ・ 敷地理：公演「水のなかの蝶」2025/12/8～11 @横浜市内のホテル 来場者数：48名  
フェローシップ助成を活用してリサーチを行った、能の演目「井筒」をモチーフとした新作を上演しました。
- ・ 私道かび：公演「団地のこえ（再演）」2025/12/7 13:00～/15:00～ @左近山アトリエ131110 来場者数：40名  
2023年度に、同会場で開催した展示「団地のこえ」をモチーフにした演劇作品を上演しました。
- ・ 山岡瑞子：展覧会「Extrication－喪失と歩みの気配－」2026/1/23～29  
@架下スタジオSite-Aギャラリー内 ギャラリー2 来場者数：130名  
新作絵画・映像などを含めたインスタレーション作品を展示しました。

### 参加者・関係者の声

- ・ プロジェクトの後押しをしていただけて大変ありがたかった（アーティスト）
- ・ 福祉関係者だけでなく美術ファンや、地域の人など幅広い人が訪れた（アーティスト）
- ・ 今後の制作の方向性をより明確にすることが出来ました（アーティスト）
- ・ 会場の地域住民から今後の継続的な展開を望む声が寄せられた（アーティスト）

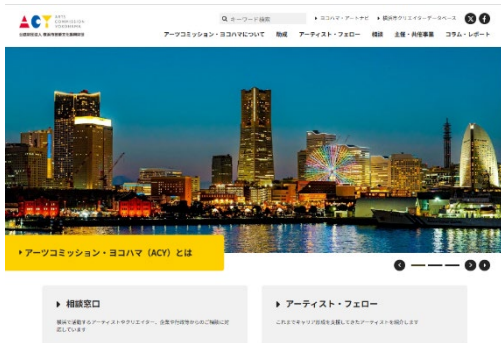
### 展望

本事業を通じて、アーティスト・フェローが助成終了後も横浜で活動を展開する契機が生まれ、市内各所で作品発表の機会が広がりました。今後は、より市民に身近な場所でワークショップ等を行い、地域との関わりを深めていきます。アーティストの横浜での継続的な活動を支えるとともに、市民がアートを通じて地域の魅力を再発見する機会の創出を目指します。

### (3) 情報発信事業

目的：ACYの主催・共催事業を中心に発信する

#### ACY HPによる情報発信



ACY主催・共催事業、過去のアーティスト・フェローの活動等を中心にお知らせしています。SNSでも情報発信を行なっています。2026年1月末にリニューアルしました。グローバルナビゲーションを一新し、助成や相談など、よくご覧いただくページへスムーズにアクセスできるようになりました。また、「アーティスト・フェロー」ページを新設しました。アーティストのキャリアを支援する助成の採択者情報をまとめてご覧いただけます

- ・ 閲覧者：80,140PV（2025年4月～2026年3月）
- ・ URL：<https://acy.yafjp.org/>

目的：横浜の芸術文化活動を発信する

#### 「ヨコハマ・アートナビ」による情報発信



横浜のアートイベントの発信とアートスポットの紹介をしています。

- ・ 閲覧者：横浜市内の子育て世代を中心に、832,364PV（2025年4月～2026年3月）
- ・ 登録数：アートイベント 1981件（同上）、アートスポット 203件（同上）
- ・ 特徴：
  - ①登録無料
  - ②XなどSNSでも発信
  - ③子ども向けイベント発信強化：夏休み・冬休み特集等、横浜の子育てのすべてが集約された横浜市公式アプリ「パマトコ」自動掲載
- ・ URL：<https://artnavi.yokohama/>

## (4) ネットワーク事業

目的 ネットワークを広げ、文化芸術が社会とつながることでの様々な可能性を共有する

### ACYフォーラムvol.5「横浜発の創造性：広がるつながり、新たなチャレンジ」



日時：7/11(金)15:30-17:00

会場：BUKATSUDO HALL

登壇者：BankPark YOKOHAMA：(株)竹中工務店 倉田駿

Art Center NEW：ディレクター 小川希

BankART1929：代表 細淵太麻紀

モデレーター：橋本誠

参加者：フォーラム49名、ツアー10名

レポート：<https://acy.yafjp.org/columns/2025/134582/>

#### アウトプット

2025年度に新たにオープンする拠点や新たな展開を迎えるNPOを、横浜市内の企業やクリエイターに紹介。登壇者によるプレゼンとディスカッションを通じ、地域での多様な協働の可能性を探りました。来場者が記入するコメントカードや情報交換会で双方向での交流を促進したほか、Art Center NEWを訪れるツアーも実施しました。BankPark YOKOHAMAは工芸を主軸に広い視野を持ち、企業や市民との協働の可能性を示しました。ArtCenter NEWはZINEなどのカルチャーを取り入れ、企画や運営も若手に託すことで新企画の創出が期待されます。BankART1929は「アトピックサイト」の発想で、様々な場所でのアートプロジェクト構想を共有。ディスカッションでは、共通のキーワードに「まちにひらく」が上げられました。

#### 参加者・関係者の声

- ・登壇者より「考えをまとめ、外の方々に伝えるいいきっかけとなった」「広く発信が出来たこと、普段お繋がり出来ない方々と交流出来たことが貴重だった」「地元の方々と連携しやすい空気感を作ってくれたことがありがたい」
- ・参加者アンケートでは88%が[満足][やや満足]と回答
- ・コメントカードでも多くの応援メッセージを読むことができ、ポジティブな関心の高さを感じることができた

#### 展望

登壇者・参加者から前向きな声が多く寄せられ、創造界隈拠点同士や地域との新たなつながりが芽生えました。今後は各登壇者や来場者による協働や新企画の実施が期待され、ACYも広報協力等でその後押しをすることで横浜の創造界隈の活性化と継続的な交流の促進を図ります。

## ACYフォーラムvol.6「くらしと環境をつなぐ、デザインやアートのカ-GREEN×EXPO 2026に向けて-」



日時：12/7（日）

会場：ポッシュホール（都筑区民文化センター）

登壇者：スタジオニブロール デザイナー 安食真

武松商事 エコクルファクトリー くるり工房 デザイナー伊藤麻由

モデレーター：認定NPO法人森ノオト 理事長 北原まどか

来場：35名

レポート：<https://acy.yafjp.org/columns/2026/134781/>

### アウトプット

GREEN×EXPO 2027の開催が予定され、持続可能な社会の実現に向けた取り組みが期待されています。本フォーラムでは横浜市内の中学生を対象としたワークショップやアップサイクル工房の事例を基に、デザイナーの考え方を共有しました。アンケートでは回答者すべての方が「満足」「やや満足」と回答。デザイナーの実践や日々の奮闘が考えを深められたと評価されました。また、「アートやデザインによる環境への取り組みが身近になったか」という質問には95.6%の回答者が「とても思う」「そう思う」と回答しており、環境問題とデザインやアートをつなぐ視点を提供できました。会場を都心臨海部外の市域で開催したこと、ポッシュホールやモデレーターの協力による地域に根ざした広報が奏功し、回答者の4割超がACYを初めて知り、65%超が初参加と新規層も開拓しています。

### 参加者・関係者の声

- ・ 2つの会社を比較しながら考えを深められた
- ・ デザインについての考え方を知ることができた
- ・ 廃棄物処理会社によるアップサイクル事業は有意義で、自分たちが不要と判断してしまっているものが目線を変えれば有用になるという意識を持つことについての示唆に富んでいた
- ・ <くらしと環境をつなぐ>がもう少し広がりがあるものだと もっとよかった。でも具体的な各社さんの取り組みからたくさんヒントをもらったと思う

### 展望

ACYフォーラムで取り上げてほしいテーマを尋ねると、地域活性化や環境への関心が高い結果となりました。地域活性化は7月のフォーラムでも最も票を集めており、ニーズの高さが伺えます。今後も時流に合わせたテーマ選定とともに、開催地や協働先を工夫していきます。

## 【プラットフォーム事業】 関内外OPEN!17



日時：2026年2月23日（月・祝）13:00～17:00

会場：象の鼻テラス

主催：関内外クリエイターズ、（公財）横浜市芸術文化振興財団

参加者：2000人（開催時間の象の鼻テラスの入場者数）

URL：<http://kannaigai.yafjp.org/kannaigai16/>

### アウトプット

17年目となる今年度は、活動のフィールドを中区・西区の外へと広げ、横浜各地との接点づくりに取り組みました。具体的には、福祉作業所で製造しているクッキーのパッケージをはじめ、袋やパンフレットなどを協働でデザインし、販売まで行った「つながるリデザイン」、横浜の意外な魅力をクリエイターが紹介するSNS企画「びっくり！YOKOHAMA」（13名のクリエイターが投稿、今後100名規模への展開を予定）、関内で活動するクリエイターが青葉区・寺家町を訪れ交流を深め、その後、寺家町の魅力を伝えるZINE制作につながった「地域交流会 関内×寺家 編」、アイデアを持ち寄り議論を通して発展させる「アイデアコンポスト」（全3回実施）の4つのプロジェクトを展開しました。

2026年2月23日には象の鼻テラスで「関内外OPEN!17展」を開催し、これらのプロジェクトの成果を紹介する展示やトークに加え、デザインピッチ、子ども向けワークショップを実施しました。クリエイターの活動を通して横浜の多面的な魅力や地域との協働の可能性を共有する機会となりました。

### 参加者・関係者の声

2/23 関内外OPEN!17展参加者アンケートより

- ・ 横浜のクリエイターの層の厚さに度肝を抜かれました
- ・ クリエイターと実践者のコラボレーションの生の声を聞く機会が貴重で有意義な時間でした
- ・ 素晴らしい活動を知ることができて、横浜の層の厚さを感じると同時に、人選が素晴らしく感動しています

参加者アンケート：100%が[満足]と回答

### 展望

今年度は、「ネットワークの軸を増やす」「クリエイティブの価値を見せる」「参加したいクリエイターを増やす」という三つの目標のもと、横浜各地での協働に取り組み、今後の展開に向けた基盤を築くことができました。今後は三か年計画のもと、新たな協働相手を見出しながら横浜各地での取り組みを継続し、クリエイターの視点や活動を通して、横浜の魅力の再発見につながることを目指します。<sup>1</sup>

## 【プラットフォーム事業】 ミナトノアート2025



日時：2025年11月22日(土)-23(日)、2026年1月16日（金）\*トークショー

会場：みなとみらい線馬車道駅構内、横浜市市民協働推進センター\*

主催：ミナトノアート実行委員会

参加者：6000人

URL：<https://minatonoart.jp/>

### アウトプット

「ミナトノアート」は、横浜発のまちづくり系アートプログラムです。5回目となった「ミナトノアート2025」は、みなとみらい線馬車道駅構内で、アートマルシェの各種ブースのほか、アートの立体作品展示やサウンドアートのライブパフォーマンスなど、様々なプログラムを実施しました。

また、9月に開催したイベント「ミナトノアート+（プラス）」では、アーティストが市内8か所の福祉事業所を訪問し、障害者の方々や職員と共にアートワークショップを実施し、そこで生まれた作品の一部を展示しました。

さらに1月には、ミナトノアートの5年の歩みと「ミナトノアート+」における福祉事業所との協働について市民や福祉関係者に説明する機会として、トークイベントを開催しました。

### 参加者・関係者の声

- ・ はじめてミナトノアートを見たとき、横浜でこんなことしているんだとビックリした
- ・ 福祉にアーティストさんが関わる重要性を改めて感じた
- ・ 福祉×アートにプラスして社会で1つの未来を作っていく大切さが学べました
- ・ 市民ですが、大変感動しました
- ・ 皆さんの熱意にGood！

### 展望

「ミナトノアート」は5回目を迎えて馬車道駅構内で開催する現行の方式も定着し、徐々に認知度も向上しています。さらに「ミナトノアート+」で新たに始まった福祉とのコラボレーションは高い評価を受けており、そうした地域社会との繋がりを意識した取り組みも続けていきたいと考えています。

## 【プラットフォーム事業】令和の横浜使節団～結城編～



日時：2025年5月30日（金）

会場：茨城県結城市

主催：株式会社リビタ、（公財）横浜市芸術文化振興財団

（※「ドックヤードガーデン活用事業」の契約に基づき実施）

料金：参加者の各自負担（視察費等は無料）

参加者：主催者含め18名（関内外クリエイターズ、ミナトノアート、助成拠点、創造界限拠点、神奈川大学、横浜市観光協会、横浜市など）

レポート：<https://acy.yafjp.org/columns/2025/134581/>

### アウトプット

令和7年度は、5月30日（金）に茨城県結城市を訪問し、まちづくり団体「結いプロジェクト」の活動を視察しました。「結いプロジェクト」は、商店街衰退などの課題に対し、街中でのマルシェイベントや音楽フェスイベントなどソフトのコンテンツを手掛け、その後、空き店舗活用の支援などハード面へと展開し、来街者や移住者の増加につなげています。当日は、旧呉服店をリノベーションして誕生したシェアスペース「yuinowa」でのレクチャー後、地域の伝統産業である結城紬を広げようとしている老舗産地製造問屋「奥順」、築90年以上の町屋をリノベーションして開業した一棟貸しの宿「HOTEL（TEN）」、音楽フェスの会場ともなっている寺院等を視察しました。音楽フェスを寺院で実施することや、古民家をリノベーションしてホテルにすることなど、新旧の資源を掛け合わせることで、街の魅力を高めていました。また、活動の中心人物は、地元出身の建築家と出身ではない商工会議所職員というペアであり、この組合せが事業の実現を後押ししています。さらに、事業の自由度を担保できるよう、原則として公費を入れずに運営しています。

### 参加者・関係者の声

- ・ プレイヤーに直接話が聞けることがよい
- ・ 自身が取り組む地方都市の商店街での事業や活動の参考、および励みになった
- ・ 地域性を捉えて活動していくことが差別化につながることを再確認した
- ・ プロジェクト先行→拠点設置というスキームでの結城市の事例が非常に勉強になった
- ・ 徒歩圏内にすでにいる魅力的な人々を、プレイヤーとして巻き込んでいくことが素晴らしいと思った

### 展望

- ・ 参加者とこれまでの視察で出会った人々との間での交流や、横浜の活動への反映などを継続的に確認していきたい
- ・ 今後の参加者については、文化を通じた街づくりに自律的に取り組む意欲のある方を中心に、流動性をもたせたい
- ・ 参加者自身が企画し、より自律的で広がりのある視察になる可能性を検討したい

## 【プラットフォーム事業】令和の横浜使節団～富士吉田編～



日時：2025年12月12日（金）

会場：山梨県富士吉田市

主催：株式会社リビタ、（公財）横浜市芸術文化振興財団

（※「ドックヤードガーデン活用事業」の契約に基づき実施）

料金：参加者の各自負担（視察費等は無料）

参加者：主催者含め17名（助成拠点、創造界限拠点、関内外クリエイターズ、ミナトノアート、横浜市など）

レポート：<https://acy.yafjp.org/columns/2026/135145/>

### アウトプット

「令和の横浜使節団」は横浜の人々が他都市を訪問し、その土地の人々や文化と交流し、そこでの学びを横浜に持ち帰るプログラム。

令和7年度二回目の開催は山梨県富士吉田市を訪問しました。

伝統織物産業と現代アートが織りなす国内唯一の布の芸術祭であるFUJI TEXTILE WEEKの運営団体の一つN&Aの現地レクチャーを財団がコーディネートし、芸術文化と地域社会を結び付けていく方法などを学びました。

現地の実践者やキュレーター、行政職員など多様な立場の方々と直接言葉を交わすことができ、有意義な時間を過ごすことができたという声が多く聞かれました。また、それぞれが横浜市内で取り組む事業に活かすことができる点を発見している姿が見られました。

### 参加者・関係者の声

- ・ 地域ぐるみで創るイベントなのだと感じた
- ・ 地域資源を掘り起こすプロセスが参考になった
- ・ 土地の歴史や文化を再認識し、それを私たちがアーティストや市民とともにどうアート事業へ発展させ創造的な価値を生み出していくべきか、重要なヒントを得た

### 展望

2023年に始まり今回で5回目を迎えた「令和の横浜使節団」は、各回の参加者から横浜での取り組みにフィードバックできる新たな発見があったという声を多くいただいています。来年度以降は、今までの参加者に加え地域コミュニティ拠点で活動する方々にも参加していただき、地域活動と芸術文化を結びつける活動を視察していきたいと考えています。